



notebook

浜松市 農林水産ノート

平成 28 年 12 月号

- ・ 農林水産情報発信WG(ワーキンググループ)がほぼ毎月配信します
- ・ ホームページやフェイスブックなど発信した情報を中心にまとめます

— 今号の目次 —

特集『食肉地方卸売市場ってこんなところ！』

今年度の親うなぎ放流の第3回目が行われました！

浜松市農業経営塾第1期生卒塾式&第2期開塾セミナーの開催

はままつ里山たいけん帖レポートより「秋の棚田を歩こう！」

「手作りソーセージでホットドッグを作ろう！」

“ふじのくに美しく品格のある邑”浜松市内21邑のパネル展を行いました

“笑顔”つなぐ はままつのユニバーサル農業

【今号の特集】食肉地方卸売市場ってこんなところ！

ご存じない方も多いかもしれません。
今回は、「浜松市食肉地方卸売市場」についてご紹介いたします。

食肉地方卸売市場とは、と畜場と市場を併せ持つ県内唯一の施設で、県西部の食肉の流通拠点となっています。

所在は東区上西町にあり、場内で働く職員は、関係団体を含めると約 140 名、生産者や卸売業者等の関係者を含めると 約 2,000 名が当施設に関わっています。



施設の運営はどこが行っているの？

⇒ 施設管理は浜松市が行っています

場内関係者は、内臓・枝肉等の検査を行う浜松市食肉衛生検査所、出荷者からの荷を受ける静岡県経済連、その他、解体業者、内臓処理業者、格付協会、食肉加工業者、買受人組合等の団体で構成されています。

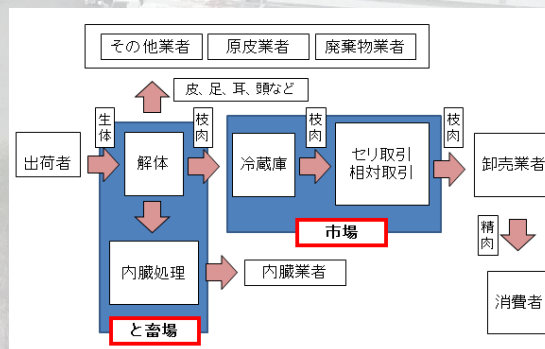
施設の中には何があるの？

⇒ と畜場と市場の2つの部門があります

と畜場とは…生体の牛や豚などを解体し、枝肉や内臓を生産する食肉処理施設。

市場とは…解体した枝肉をセリ取引又は相対取引する施設。

と畜場は、地元の生産者の保護と衛生的で安定した食肉を生産に、市場では公正な取引と安定した価格形成に、また食肉卸売市場全体では地元の雇用創出に大きく貢献しています。



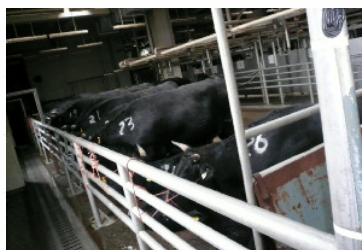
【出荷者から消費者までの流れ】

と畜場の業務

- ・ 1日におおよそ牛20頭、豚400頭を解体します。
- ・ 当日解体する牛や豚の生体が早朝から搬入されます。
- ・ 午前中に豚の解体を、午後に牛の解体を行います。
- ・ 内臓は、水洗後に場外へ搬出されます。
- ・ 生産された枝肉は、洗浄後に格付けをして市場の冷蔵庫へ入庫します。



搬入された豚



搬入された牛



冷蔵庫へ入庫した枝肉
(手前が牛、左の奥が豚)

市場の業務

- ・ 前日までに解体した枝肉を、セリ取引又は相対取引により買受人が購入します。
- ・ セリ取引は、月～金の午後に行われます。(牛は月曜日のみ)
- ・ セリ取引は、セリ人が枝肉を1頭ずつ出展し、その枝肉を卸売業者が応札器で応札します。最も高い金額で応札した者を落札者とします。
- ・ 購入された枝肉を当施設から搬出します。



セリ取引の様子

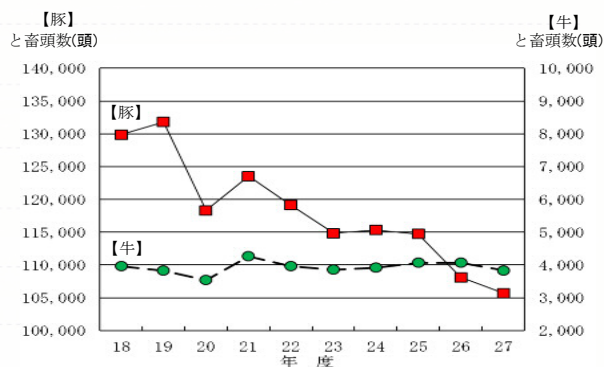


牛の枝肉をトラックに積込む様子

食肉地方卸売市場の年間生産量

平成27年度は、牛**3,837頭**、豚**105,698頭**分の枝肉を生産しました。

右のグラフは、過去10年間のと畜頭数の推移です。牛は、毎年4,000頭前後で推移していますが、豚は年々減少傾向にあります。豚が減少している理由は、生産者の廃業やPED（豚の病気）の流行で、多くの子豚が死亡したことによる影響と考えられています。



牛及び豚におけると畜頭数の推移

今年度の親うなぎ放流の第3回目が行われました！



12月8日、今年度の親うなぎ放流の第3回目が行われました！

こちらの放流は、「浜名湖発親うなぎ放流事業」として平成25年から行われている取組です。

近年、減少するシラスウナギ（うなぎの稚魚）の資源回復を図るとともに、うなぎに関わる事業者の経営の安定化を目指す目的で、浜松市・湖西市・漁業協同組合などで構成する浜名湖地区水産振興協議会と、静岡県、浜松うなぎ販売組合、浜松うなぎ料理専門店振興会が共同で実施しています。

当日は朝から好天に恵まれ、遠州灘沖に出た漁船から関係者の皆さんが親うなぎを放流しました。産卵に向かう親うなぎは、通常よりも太く、色も黒っぽくなることから、「銀うなぎ」と呼ばれます。浜名湖地域の漁師から集められた大きな親うなぎたちは、沖の海に飛び込み勢いよく泳いでいきました。

浜名湖発親うなぎ放流連絡会の加茂会長は、「うなぎ資源を保護する活動に関心を持ってくれる人たちが増えて嬉しい。自然に近い状態で親うなぎを放流することは、シラスの減少を食い止めるのに理にかなった方法だと思っている。今後もこうした事業を続けていきたい。」と、放流事業に対するおもしろい話をいただきました。

こうした関係者みなさんによって、「浜名湖うなぎ」のブランドと、うなぎのまち・浜松の食文化を守る取組が続けられています。



浜松市農業経営塾第1期生卒塾式&第2期開塾セミナーの開催

「浜松市農業経営塾第1期生卒塾式及び第2期開塾セミナー」を2月3日（金）に開催します！

浜松市農業経営塾は、次代の浜松の農業をけん引するリーダーを育成するために昨年度より始まった取り組みです。

昨年度開催された第1期開塾セミナー参加者約100名のうち17名が第1期目の塾生として今年度全7回のゼミに参加し、経営理念や人的資源管理、マーケティングなどの講義を約半年にわたり受講しました。そして、先日塾生のみなさんはそこで学んだ内容を活かし、それぞれの経営を発展させるための事業計画を策定しました。

今回の卒塾式では、3名の農業者による成果発表と、市長による卒塾証書授与がとり行われます。


また、合わせて開催する開塾セミナーでは、本市農業経営塾をコーディネートしていただいている新日本有限責任監査法人・経営専務理事の大久保和孝氏より、「農業経営が抱える課題と成功のカギについて」をテーマに基調講演をしていただきます。

オンラインアグリビジネススクールの講師や東北復興キリン絆プロジェクトなど、農業経営や地方創生に関する豊富な経験を基に、農業経営拡大のコツについてお話いただきます。

農業経営に必要なノウハウを学ぶだけでなく、共に切磋琢磨し合う仲間づくりの場ともなっているこの農業経営塾。今回卒塾を迎える第1期生のみなさんからは「生産や経営などを学べる実践的な内容」「トップクラスの講師陣と知り合えて距離も近くてよい」などの声もいただいています。

実際に参加した第1期生の生の声と基調講演を同時に聞ける貴重な機会となっていますので、ご興味のある方は、ぜひご参加ください。



詳細は、 [浜松市農業経営塾](#) 検索 

はままつ里山たいけん帖レポートより 「秋の棚田を歩こう！」

浜松市のグリーンツーリズム事業として発行している「はままつ里山たいけん帖」では、農山漁村での開催されている様々な体験事業を紹介しています。今回は、平成28年度後期に実施されたプログラムのうち、2つをご紹介します。



穏やかな小春日和の一日、「秋の棚田を歩こう」が、天竜区の大栗安の棚田で開催されました。

大栗安棚田倶楽部の鈴木さんの案内で、きれいに間伐された森の中からスタート。

茶畑の間を抜け、皇帝ダリアなどが満開のお庭を鑑賞し、大栗安の棚田を歩きます。昔は、この地域に三千枚以上の棚田があったそうですが、今も残るのは二か所だけ。残されたかけがえのない財産を、地域の皆さんが大切に守り続けています。

少し汗をかいてお腹が減ったところで、昼食。

今日は、棚田でとれたお米を、竹筒で炊き上げます。おかずは、地域のお母さんたちが作った、椎茸の天ぷらに里芋の煮物、お漬物に猪のお肉！贅沢な山の恵みに感謝です。午後はしめ縄づくりとクリスマスリースづくり。地域の皆さんに教えてもらいながら、出来上がったしめ縄やリースをお土産に、盛り沢山のイベントでした。



はままつ里山たいけん帖レポートより 「手作りソーセージでホットドッグを作ろう！」



北区細江町の農家レストラン「とんきい」で手作りソーセージとホットドッグ作り体験が行われました。

最初に「とんきい」の社長の奥様から、「育てている豚の餌は、とうもろこし、米、魚粉を粉碎して自社工場で作成、防腐剤や抗生物質などを使わないことで、臭みがない安心・安全なお肉を消費者に届けたい」とブランド豚『浜名湖そだち』や『プレミアムきんか』へのこだわりや、「自分達の豚の価値を消費者に伝えたい」というソーセージ作りを始めたきっかけのお話を伺いました。

その後、いざ、ソーセージづくり。大きなスポットのような機械を使って、羊の腸にお肉を詰めていきます。やぶらないように親子で協力して慎重に作業を進めました。以前、参加したときにはうまくできなかったお子さんが、今回はうまくいったと満面の笑み。そして、詰め終えたソーセージを茹でて、できたてを参加者全員でいただきました。ソーセージはお肉からできていること、そして、スーパーで売っているソーセージとの違いを学びながら、その向こうにある「命」についても感じられる「食育」の事業です。また、機会を見つけて「新鮮な」ソーセージづくりに参加してみませんか？



はままつ里山たいけん帖は市HPでご覧いただけます

「ふじのくに美しく品格のある邑」浜松市内 21 邑のパネル展を行いました



平成 28 年 11 月 21 日（月）～11 月 25 日（金）の期間、浜松市役所 1 F フロアで「ふじのくに美しく品格のある邑」に認定されている浜松市内 21 邑のパネル展を実施しました。


「ふじのくに美しく品格のある邑」とは、地域の宝（資源）を大切に思い、それを守り、次世代につなげていこうとする人々が集まって活動を行っている農山村のことを指します。

県内全 35 市町で組織された「ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合」によって認定されるこうした地域（邑）は、平成 28 年 11 月現在、県内 104 邑が認定されており、浜松市内では南区・恩地町環境みどり会や西区・和地ふるさと会など県内最多の 21 邑が認定されています。

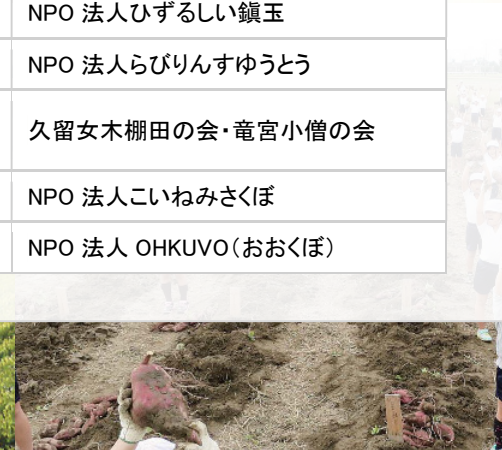
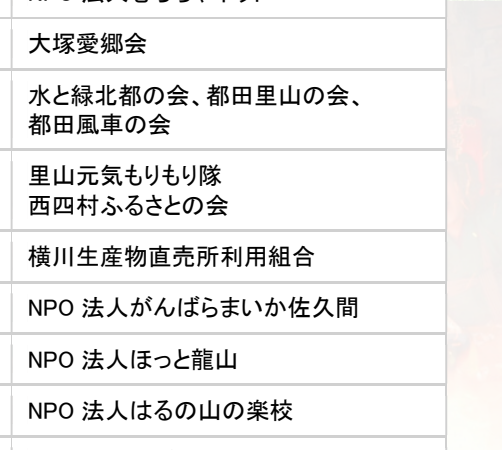
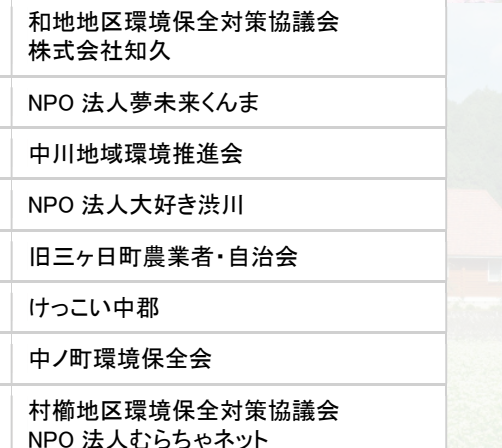
パネル展では、一斉に並んだ 21 邑の景色の写真や活動の内容などが紹介され、たくさんの来庁者にご覧いただくことができました。

浜松市で認定されている地域は次ページのとおりです。詳細については、【ふじのくに美しく品格のある邑ホームページ】をぜひご覧ください。



詳細は、 検索 

No	名称	活動組織
1	地域いきいき共生！恩地町環境みどり会	恩地町環境みどり会
2	和地ふるさと会	和地地区環境保全対策協議会 株式会社知久
3	夢未来くんま	NPO 法人夢未来くんま
4	銅鐸と水田のふるさと中川	中川地域環境推進会
5	大好き渋川	NPO 法人大好き渋川
6	三ヶ日みかんの里	旧三ヶ日町農業者・自治会
7	中郡地区	けっこい中郡
8	中ノ町地区	中ノ町環境保全会
9	村楯地区	村楯地区環境保全対策協議会 NPO 法人むらちャネット
10	大塚地区	大塚愛郷会
11	都田地区	水と緑北都の会、都田里山の会、 都田風車の会
12	～竜ヶ石山～西四村の里	里山元気もりもり隊 西四村ふるさとの会
13	いっぷく処横川	横川生産物直売所利用組合
14	そばの里づくり佐久間	NPO 法人がんばらまいか佐久間
15	ほっと龍山	NPO 法人ほっと龍山
16	はるの山の楽校	NPO 法人はるの山の楽校
17	ひずるしい鎮玉	NPO 法人ひずるしい鎮玉
18	らびりんすゆうとう	NPO 法人らびりんすゆうとう
19	久留女木の棚田 ～竜宮小僧伝説の邑～	久留女木棚田の会・竜宮小僧の会
20	水窪地区	NPO 法人こいねみさくぼ
21	美竹林と極旨野菜の里	NPO 法人 OHKUVO(おおくぼ)



“笑顔” つなく はままつのユニバーサル農業




障がい者の農業参画に取り組む市内の農業者や福祉関係者を紹介していくインタビューシリーズ『笑顔”つなく はままつのユニバーサル農業』のホームページに、

- ・ 障害福祉施設だんだん 金田祥史さん・和田里美さん
- ・ 特例子会社ひなり 中島昌博さん
- ・ スズキ果物農園 鈴木隆広さん

を掲載しました。

“ユニバーサル農業”とは、ユニバーサル=普遍的な、全体の、という言葉が示すように、誰もが参加できる農業という意味です。浜松市では、平成 17 年度より浜松市ユニバーサル農業研究会を発足し、農業の多様な担い手の育成支援策としてユニバーサル農業推進事業を展開してきました。今、その取り組みは全国的にも注目を浴びています。

研究会メンバーを紹介していくこちらのインタビューシリーズでは、今後も福祉、企業、医療など様々な立場でユニバーサル農業に取り組まれている方々をご紹介していきます。ぜひご注目ください。

詳細は、 [浜松市ユニバーサル農業](#) 検索 





FSC

100%

責任に管理された
森林資源を使用し
ています

FSC C103704

